

1年「なかよしあつまれ」 教科書P1～P9 (4時間扱い→4時間で実施)		
教科書	教師の手立て	期待する児童の意識
<p>ポイント1 (絵を見て、自由に発表させながら、「○○が△△している」の語形ではなしをさせていく)</p>	<p>問1 「どんなものが、何をしているか見てみましょう。みつけたものをお話ししてください」教科書P1について</p> <p>(留意点) ・「何が、どうしている」 ・「何が、どんな様子だ」などを補足しながら説明させる。</p>	
<p>ポイント2 (話の場所を○印でおさえて囲み、その都度確認することで、同じはなしがでないようにする)</p>	<p>・どこの場所にそれが描かれているのか、○印をつけて確認していく。 ・子どもには、一緒に○を教科書に囲ませていく。</p>	<p>(発言) ・くまが入学式をしている。 ・お父さんが写真を撮っている。 ・チューリップが、咲いている。 ・チョウが飛んでいる。 ・小鳥が飛んでいる。</p>
<p>ポイント3 (「何が」について、確認しながら、「何」の仲間を意識させていく)</p>	<p>※「何が」について、同じものを囲ませながら、1つの仲間(集合)としてとらえさせていく。「形や動き、向き、位置を捨象して、1つの集合として捉えさせていく」</p>	<p>・桜が咲いている。 ・花びらが散っている。 ・校門に花が飾っている。 ・風船が飛んでいる。</p>
<p>ポイント4 (左右の絵を見せながら、「同じ絵ですか」と問うことで、違いがあることを子どもが発見し、指摘する間合いを確保する)</p>	<p>問2 「左と右の絵を見て、どこがどう変わったのか見つけてお話ししましょう。」</p>	<p>(発言) ・チョウの数が減ったよ。 ・小鳥の数が増えたよ。 ・飛ぶ小鳥の羽根の向きが変わった。 ・桜の花びらの数が増えたよ。 ・咲いているチューリップの数が増えたよ。</p>
<p>ポイント5 (出された意見を全員に確認しながら、「同意」を求めていくことで、その子なりの思考・判断・表現の場として設定していく)</p>	<p>(留意点) ・数の増減については、数を言った場合も認める。 ・変化の場所を囲みながら、全員の納得を得ながら、話を進めていく。</p>	<p>・花壇が小さくなったよ。 ・入口の玄関のドアが開いたよ。 ・右の黄色い風船の1つがさんかくになったよ。 ・左の青い風船が上に上がったよ。</p>

<p>ポイント6 (「違う」というだけでなく、「どう違う」「どう変わった」のかについて問いかけることで、「増減」「大小」「変形」などの視点から数量の変化をとらえる素地を身につけていく)</p>	<p>・「増えた・減った」「大きくなった・小さくなった」「形が変わった」などの言葉について、自由に見つけさせながら、算数を学ぶ上での基盤となる言葉の概念を養っていくようにする。 ・左・右がわからない児童には、黒板に「ひだり」「みぎ」を書いて知らせるとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看板の△の数が増えたよ。 ・看板の下についていた花が落ちたよ。 ・看板の長さが長くなったよ。 ・桜の木の大きさが大きくなったよ。 ・校舎の窓の形がさんかくになったよ。 <p>など。</p>
<p>ポイント7 (同じ特徴をもつ「仲間」としての概念が養われるように、同じ仲間と言えるわけも問いかけながら学習をすすめる)</p>	<p>問3 「いろいろな仲間」をみつけよう。どんな仲間が見つかるかな。</p>	
<p>ポイント8 (「仲間」と言えるものにおはじきを置かせることで、判断する力を培っていく)</p>	<p>・左の絵を見て、「チョウ」の仲間に、1つずつおはじきを置きましょう」</p> <p>・右の絵を見て、小鳥の仲間に、おはじきを1つずつ置きましょう。</p> <p>・右の絵を見て、咲いているチューリップの仲間におはじきを1つずつ置きましょう。</p>	<p>(数学的活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョウとおはじきを一対一対応させる。 ・小鳥とおはじきを一対一対応させる。 ・チューリップとおはじきを一対一対応させる。
<p>ポイント9 (「仲間」といえるものを見つけてることを発展させていく)</p>	<p>問4 他には、どんな仲間がいるかな、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・くまの仲間 ・風船の仲間 (色の視点を入れる場合と入れない場合も確認するとよい。「風船」「赤い風船」「青い風船」など…。) ・桜の仲間 (1本も仲間)

<p style="text-align: center;">ポイント 10</p> <p>（「仲間」を見つけたり、「仲間」の様子が変わったりすることを見つける勉強をしたことを振り返る）</p>	<p>※「いろんな仲間」が「いろんなことをしたりしていた」ね。 また、「左と右では、いろんなことが変わっていた」ね。 とてもいっぱい見つけたり、おはなしできたりしたね。楽しかったね。 など、振り返りと評価を行う。</p>	
<p>第2時 「なかよしあつまれ」 教科書P 3～P 4～P 5</p> <p style="text-align: center;">ポイント 1</p> <p>（「花」といえる仲間を抜き出させていく）</p> <p style="text-align: center;">ポイント 2</p> <p>（チューリップの仲間を「咲いている」「咲いていない」という視点から、さらに仲間分けをさせる）</p>	<p>問1 「どんなものが、何をしているかな。絵を見ていっぱいお話ししましょう」</p> <p>・どんな花がありますか。</p> <p>・みんな「花」の仲間とってよいですか</p> <p>・チューリップには、どんな仲間がありますか。</p> <p>・咲いているチューリップに、1つずつおはじきを置きましょう。</p>	<p>（発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、気球に乗っている。 ・くまが池の魚を見ている。 ・小鳥がシーソーで遊んでいる。 ・モグラが花壇で遊んでいる。 ・パンダがなかよく遊んでいる。 ・リスが輪になっている。 ・タンポポが花壇に咲いている。 ・チョウが飛んでいる。 ・チューリップがいっぱい咲いている。 …。 <p>（発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンポポ（黄色い花） ・チューリップ（赤い花） ・桜（ピンクの花） ・みんな「花」の仲間です。 <p>・「咲いているもの」と「咲いていない（つぼみ）もの」の仲間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一対一でおはじきを置く

<p>ポイント3 (魚や小鳥を「仲間分け」するための視点の生み出しを図る) →どっちを向いているかで仲間分けできる</p> <p>ポイント4 (窓の形を「仲間分けする」ための視点の生み出しを図る) →窓のかたちで仲間分けできる</p>	<p>・おはじきの置かれていないチューリップは、どんな様子ですか。</p> <p>※チューリップの仲間は、「咲いている」と「咲いていない」ものの仲間にも分けられるんだね。</p> <p>・魚は、どんな仲間に分けられるかな。</p> <p>・シーソーで遊んでいる小鳥は、どんな仲間に分けられるかな。</p> <p>・窓のかたちは、どんな仲間に分けられるかな</p> <p>※今日は、いろんな仲間を見つけたりその仲間を小さな仲間に分けたりしたね。 【振り返り】</p>	<p>・おはじきのおかれていないチューリップの仲間の特徴を表現する。 →「咲いていないもの」「つぼみ」</p> <p>・2つに分けられます。 ・右を向いている魚と左を向いている魚に分けられる</p> <p>・右を向いている小鳥と左を向いている小鳥 ・右側に乗っている小鳥と左側に乗っている小鳥</p> <p>・さんかくの形・まるいかたち・しかくのかたちに分けられます</p> <p>・いろなん仲間を見つけたよ。小さいなかまに分けられたよ。</p>
---	---	--

<p>第3時 「たりるかな」 P 6</p> <p>ポイント1 (くまやうさぎがしていることと、その後の結果を話題にしながら「たりるかな」の問いを生み出していく)</p> <p>ポイント2 (全員が入れられるか、足りるのかについて、予想させながら、「足りる」というはっきりとした根拠をもとめる状況を生み出しながら問いを生み出す)</p> <p>ポイント3 (「線でつなぐ」ことのわかりやすさと、結果の見極め方、あまりと「数の大きさ」の判断の仕方について、理解させていく。)</p> <p>ポイント4 (「線でつなぐ」方法の適用を図りながら、うさぎの場面での「袋」とフックの数の大小について、調べて判断させていく)</p> <p>ポイント4 (「線でつなぐ」方法の結果のみとり方・判断の仕方を話題にし、「数の大小」の決め方、「あまり」の意味などについて、理解させていく)</p>	<p>問1 「くまやうさぎはなにをしていますか」</p> <p>問2 くまは、全員のランドセルをロッカーに入れられるかな。どうすれば調べられますか。</p> <p>・「線でつなぐ」とわかりやすいのかな、 ・どちらの方があまりますか。 ・ロッカーの方が「数が多い」と言えますか。</p> <p>問2 うさぎは、袋をフックにかけようとしています。全部の袋がフックにかけられるか調べてみましょう。どうすればよいかな。 ・やってみましょう。</p> <p>・全部の袋がフックにかけられそうですか。 ・フックの数と袋の数はどちらが多いですか。</p>	<p>(発言) ・くまは、ランドセルをたなに入れています。 ・うさぎは、袋をフックにかけようとしています。</p> <p>(つぶやき) ・線でつなげばよいです。</p> <p>(発言) ・線でつなぐとわかります。 ・ロッカーのほうがあまります。 ・みんなたなに入れられます。 ・ロッカーの方が「数が多い」です。</p> <p>(発言) ・線でつなげばよいです。</p> <p>・かけられそうです。 ・フックの数の方が多いです。</p>
---	--	---

<p>ポイント5 「線でつなぐ」方法で調べさせながら、もっとわかりやすい方法へと意識を高めていくようにする)</p> <p>ポイント6 (具体物の数を、おはじきの数に1つずつ置き換えていく方法を理解させる)</p> <p>ポイント7 (数をおきかえたそれぞれの色のおはじきの使い方・並べ方について考えさせる)</p>	<p>・ どうしてわかりましたか。 ※フックのあまりを囲む。 ・ いくつあまりましたか。</p> <p>問3 全員のねずみが、ボールを使えるかしらべます。線を繋いで調べてみましょう。</p> <p>・ もっとかんたんに、はっきりわかるようにするには、どうすればよいでしょう。</p> <p>・ ごちゃごちゃしてわかりにくい時には、「おはじき」を使うことがあります。ねずみの数だけ青いおはじきを出してならべましょう。</p> <p>・ ボールの数だけ、赤いおはじきを出して並べましょう。</p> <p>・ どんな並べ方をすれば、ボールが足りるかどうかわかりやすいですか。並べてみましょう。</p> <p>ねずみ ○○○○○○ ボール ●●●●●</p>	<p>・ フックの方があまるからです。 ・ ひとつあまりました。</p> <p>(数学的活動) ・ 線でつなぐ→線がからんでわかりにくい。はっきりしない。</p> <p>(発言) ・ 数を数える・ ・ 数を調べる…。</p> <p>(数学的活動) ・ 青いおはじきをねずみの上に置きながら、ねずみと同じ数だけのおはじきを机の上にだす。</p> <p>・ 赤いおはじきをボールの上に置きながら、ボールと同じ数だけのおはじきを机の上にだす、</p> <p>(数学的活動) ①赤と青のおはじきをたてに並べてペアを作って並べる。 ②赤と青のおはじきをくっつけて並べる ③赤と青のおはじきを上におきながら並べる。</p>
--	--	---

<p>ポイント 8 (数をおきかえたそれぞれの色のおはじきの「数の大小」がわかりやすい並べ方について考えさせる)</p>	<p>・こんな並べ方をしている人がいます。どちらの並べ方をすれば、わかりやすいですか。 ①を紹介する。 (多にも②③の方法があることを知らせる)</p>	<p>(発言) ・わかりやすいです。</p>
<p>ポイント 8 (2つのおはじきの並べ方によって、「数の大小」の比べやすさが違ってくことや、よりよい並べ方があることを理解させていく)</p>	<p>・くっつけたり、たてに並べたりする方法と、バラバラのままでは、どちらが数の違いがわかりやすいですか。 ※バラバラに並べて比べる方法を紹介して、「わかりやすさ」を比較させる。</p> <p>・両方のおはじきを、まっすぐ、たてにそろえるように並べるとわかりやすいですか。</p>	<p>(発言) ・くっつけたり、たてに並べたりする方が、数の違いがわかりやすいです。</p>
<p>ポイント 8 (「ねこ」と「メダル」の数の大小比較に「おはじき」を使った方法を活用させていく)</p>	<p>問4 「ねこ」とメダルの数ではどちらの数が多いでしょう。おはじきをならべる方法で比べてみましょう。</p> <p>・「ねこ」の数だけ青いおはじきを出して並べましょう・</p> <p>・メダルの数だけ、赤いおはじきを出して並べましょう。</p> <p>・きちんと並べて、どちらが多いか比べましょう。</p>	<p>(発言) ・わかりやすいです。</p> <p>(数学的活動) ・おはじきの赤と青の二色を使って、それぞれの数に置き換えて比べる。</p> <p>・ねこの数を青いおはじきに置き換える。</p> <p>・メダルの数を赤いおはじきにおきかえる。</p> <p>・それぞれのおはじきを、「並べたり、くっつけたり、上においたり」して、数の大小を比べる</p>

<p>ポイント 9 (数が「同じ」ということの根拠を、おはじきの並び方をもとに、表現させる)</p> <p>ポイント 10 (どちらも「あまり」がないことと「同じ数」との関係を具体的な事象をもとに判断させる)</p> <p>ポイント 11 (ふりかえりをして、新たな知識・技能について具体的な操作と関連づけながら「まとめ」をする)【振り返り】</p>	<p>・どちらの数が多いですか。</p> <p>・ねことメダルの数は「同じ」といってよいですか。</p> <p>・どうして「同じ」と言えますか。</p> <p>・どちらもあまりがない時には「同じ数」だと言ってよいですか。</p> <p>・ねことメダルをくっつけたり、並べたりすれば、数が同じかどうかわかりやすいと言ってよいですか。</p> <p>問5 今日「たりるかな」「使えるかな」「みんなもらえるかな」などについて調べる方法を勉強しましたね。</p> <p>どんな比べ方をしましたか。</p> <p>※「線をつなぐ」「おはじきを使って、並べて比べる」などがありましたね。</p>	<p>・同じ数です。</p> <p>・「同じ数」だと言えます。</p> <p>・どちらもくっついていて、あまりがないからです。</p> <p>(つぶやき・頷き・挙手で確認)</p> <p>・よいです。</p> <p>・よいです。</p> <p>・線をつないだり、おはじきを使って、並べたりとい、数を比べました。</p>
<p>第4時 「かたちをみつけよう」教科書P8</p> <p>ポイント 1 (「まる」「しかく」「さんかく」などのかたちを話題にしながら、「絵」のなかにある「かたち」を見つける意欲を高めていく)</p>	<p>問1 左のページから「いろいろなかたち」を見つけましょう。どんな形がありますか。</p>	<p>(つぶやき・発言)</p> <p>「まるいかたち」</p> <p>・信号機のランプ</p> <p>・くるまのタイヤ</p>

<p>ポイント2 「まる」「しかく」「さんかく」などのかたちには、いろいろな大きさや向き、色などがあることをおさえ、どれも「同じかたち」という捉えさせていく)</p> <p>ポイント3 (左のページで見つけた「さんかく」「まる」「しかく」のかたちの特徴をもとに、右のページからもかたちを見つける見通しをもたせて、活動させていく)</p> <p>ポイント4 (教室や自分のもちもの、学校にあるものから「まる」「さんかく」「しかく」などのかたちを見つける活動をしくむ→算数の学習を生活とつなぐ)</p>	<p>※いろいろな大きさや特徴のある「まる」「さんかく」「しかく」があることをおさえる。</p> <p>問2 右のページから、「さんかく」や「まる」「しかく」のかたちを見つけましょう。どこにどんな形がありますか。</p> <p>問3 教室や学校のなかにある「まる」「さんかく」「しかく」のかたちを見つけよう。</p> <p>・具体物がなければ、写真等で紹介してもよい。</p>	<p>「しかくいかたち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車の窓 ・信号機のまわり ・先生のもっているはた ・ビルのまど ・男の子が追っているおりがみ <p>「さんかくのかたち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お何の子がおっている折り紙 ・チューリップの花びらのかたち …。 <p>「さんかく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館の天井 <p>「しかく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肋木 ・得点版 ・ドッジボールのコート ・教室のドア ・掲示物の作品 ・消火栓のかたち ・机 <p>「まる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボール ・そうじとうばん表 …。 <p>(発言) できるかぎり具体物をもとに発表させる。</p>
---	--	--

